



甲冑



博多人形





渡り廊下



渡り廊下





母屋



母屋



## 大刀洗町本郷（東本郷区）

三原城址 1190年ごろ～1586年まで

佐々木家住宅 1873年～現在まで



## 三原城の始まり

本郷地区を中心とする豪族であった三原氏は三原禅正時勝を始祖として本郷に居を構えるとあるが、いつの時代の人なのかは不明である。建久元年（1190）、原田種直の子の種朝は、糸島郡高祖城より本郷三原家に入って三原氏を継ぎ13代当主となり新たな三原氏が始まった。そしてこの地に堀と塀で囲んだ平城を築城、これが三原城である。



## 三原城の終わり

戦国時代の天正14年（1586）、当主三原招心が四王寺の岩屋城における島津勢との戦いで、壮絶な最後を遂げ、主を失った城もその役割を終えた。





## 佐々木家の始まり

佐々木家は、もと松崎伊予守有馬豊範の遺臣の田口氏とされ、松崎藩は縁戚の跡継ぎ争いに巻き込まれて貞享元年（1684）豊範親子が久留米藩預かりとなって絶えた。これに仕えた田口氏は、松崎藩廃絶後、御井郡千代島村（現・久留米市北野町）に逃れ、後に現在の本郷村に移って佐々木氏を称した。



## 住宅の建築

屋敷は、中世の平城「三原城」の北に接している。主屋の丑梁には、佐々木興八郎種興を施主とする、明治6年（1873）の上棟棟札が打ち付けられている。当時の家業は、木蠟製造業だったようである。主屋北方に突出する土蔵及び家人が「ヒロマ」と呼ぶ離れ座敷は、興八郎翁の養女・家壽（子）女の代に上棟したことが、土蔵に明治37年（1904）の棟木銘、「ヒロマ」に明治38年（1905）の丑梁墨書銘から分かる。





## 佐々木家の繁栄

家壽女が37歳の明治17年（1884）に夫・一郎氏が病死した後、その遺志を継いで養蚕・製糸業で財を成した。

夫の没後数年で桑園を倍加させ、明治28年（1895）には蒸気機関を据え付けた大規模な製糸場を建築した。

家業を縁者に託した後「老後の楽しみとして家屋の建築に数奇を蒐め以って余栄を楽しむ」との記事があり、贅を尽くした「ヒロマ」は大正時代すでに広く知られていた。



## 佐々木家の現在

現在は本郷地区の方々に結成された、佐々木家住宅を守る会のボランティアの方々や福岡女学院大学の学生たちにより、保存活動が行われており、清掃や歴史の勉強などに取り組んでいる。

佐々木家当主は、現在もここに居住している。





## 今後の活用

この歴史ある佐々木家住宅と三原城址は大刀洗町にとって貴重な財産です。

今まで残してこれたこの貴重な施設も、これからあとの世代につないでいくためには時代に沿った活用を考える必要があります。

**歴史的にも、文化的にも価値ある住宅と城跡の未来について考えてみましょう。**